巻頭言

提言（特に青壮年の方々に訴える）

香　坂　要三郎*

1960年代，日本が世界に誇るような高度成長により，工業の発展，生産の増長による経済の繁栄を迎えたが，それも束の間のことで，例の石油ショックを契機として急転直下，各種の悪因子が重なり合うことになり，今や深刻なる不況，インフレ，失業，倒産などの難問が山積し，官民の必死の努力にも拘らず，その改善，解決の見透しは極めて難しく，お先真っ暗と言うべき情勢に追い込まれている．

これは日本にとっては第二次世界大戦直前の危機，敗戦後の難局にも比すべき危機であり難局である．否考えようによってはそれらとは比較にならぬ程の深刻さが潜んでいるのではないかと考える．というのは今のこの事態は日本だけではなく世界的なものであり，地球そのもの或は人類全体の危機を意味するからである．

これは我々の目に映つるいろいろの悪因子と見られる各種の事象のほかに，目に見えぬしかしその根源と言うべき各種の悪因子を含むからである．例えば人口，資源，食糧，軍備などの問題もさることながら，これに対応する人間の倫理，教育の低調欠陥などの問題であり，これの解決なくして今日のあらゆる難問の解決はあり得ない．のみならずこの根本問題に触れずして目前の難問打開に殁頭するような態度を捨てぬ限り，日本を含めた世界人類の危機は数十年を出でずして到来し，人類の存亡をかけた大混乱を来たすであろうと考える．

この種の危機に対する警告はこの数年来各方面のそして内外の権威者によって各種の刊行物などによって数多くなされているにも拘らず，これの解決に向って努力する人々の誠に乏しきことを遺憾とするものである．斯かる難局に対処するには，いわゆる偉人による革命か然らずんば若い青壮年層の熱情と団結による以外にないことは人類の歴史にも明らかであり，卓越した偉人の出現など到底期待できぬ今日においては後者の道に頼らざるを得ないと思うが，少くも現在のわが国において斯のごとき若い階層の人々の心意気なきところに私は限りなき淋しさと悲しさを感ずる．願わくば「われ等立たずんば」の心意気をもってこの難局の打開に精進せられる青壮年諸士の奮起に期待するところ極めて大なることを申し述べて提言とする．

* 香坂要三郎（Yosaburō KŌSAKA），大阪大学名誉教授，関大講師，工博，応用化学